

平成 28 年度第 1 回

登録タイル張り基幹技能者認定試験問題 (60 分)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60 分

2. 問題数 25 題(四者択一方式)

注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子は開けないでください。
- ② 受験番号と氏名は、問題用紙および、解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- ③ 本冊子は表紙を含め 10 頁です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などあった場合は、黙って手を上げて申し出てください。
- ④ 本冊子の持ち帰りは禁止です。解答用紙と共に提出してください。
- ⑤ 解答の方法は次のとおりです。
 - イ. 正解と思うものを(1~4、またはイ~二)の中から 1 つだけ選び、解答用紙の解答欄にその番号または記号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ロ. 解答を訂正する場合は、訂正する解答を、消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
- ⑥ 電子式卓上計算機、携帯電話、情報端末機、その他これと同様の機能を有するものは使用してはいけません。
- ⑦ 試験開始後 30 分までの遅刻は受験することができます。ただし、解答できる時間はこの試験終了予定時刻までです。
- ⑧ 試験中質問があるときは、黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方に関する質問にはお答えできません。
- ⑨ 試験終了予定時刻前に解答が出来上がった場合は黙って手を上げて係員の指示に従ってください。ただし、試験開始から 30 分以内の場合は退出できないので、静かに着席しててください。
- ⑩ 係員の試験開始の合図で始めてください。

(一社)日本タイル煉瓦工事工業会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

【4者択一方式、最も不適当なものはどれか。】

問題1. 登録基幹技能者の役割について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 現場の施工実績に精通し、現場における作業管理・調整能力を有する。
2. 現場で技能者の配置を行う目的は安全第一である。
3. 現場の作業を効率的に行うために人の配置と作業方法、作業手順を作成する。
4. 生産グループ内の技術者に対する施工に係わる指示、指導を行う。

問題2. 登録基幹技能者に必要な資質として最も不適当なものはどれか

1. リーダーとして大切なことは信頼だが、その信頼は約束を守るところから得られる。
2. 理屈を言い立てるよりも、まず勇気を出して実行するほうが説得力は大きい。
3. 人を率いるには、人間愛に勝るものは無い。情けが無くては、人はついてこない。
4. 仕事に信念を持ちつつ、決断を技能者にゆだねてこそ人はついてくる。

問題3. 登録基幹技能者に求められる能力で最も不適当なものはどれか。

1. 一般の技能者を指揮・監督できる十分な能力があれば、作業能力は求めない。
2. 出来上がりの点検、工事の是正が出来る能力があること。
3. 未熟練の作業者をレベルアップさせるOJT教育を行う能力を有する。
4. 技術者、他の職長との調整能力があること。

問題4. OJTを進める上で重要なポイントで、最も不適当なものはどれか。

1. 部下よりも、上司が意欲をもって取り組めるものであること。
2. 日常の仕事を通じて指導・教育が可能な目標・項目であること。
3. 目標は定量的で具体的であること。
4. 目標は設定期間終了時に評価が可能であること。

問題5. OJTについて、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. OJTとは、職場で上司・先輩が、部下に日常の仕事を通じて、必要な知識・仕事への取り組み等を教育することであり、職場内訓練と言う。
2. OJTは本来計画的に行われるものであるが、そのためのプログラムが単に「現場に出て仕事を覚えろ」という、「捨て育ち」にすることもOJTのひとつである。
3. OJTは部下育成、部下指導と同意語として使用されることがある。職場内での計画的な日常指導を強調する場合もOJTという言葉を使う。
4. OJTは個人のレベルに合せた目標が設定できる。また、研修の把握が容易である。

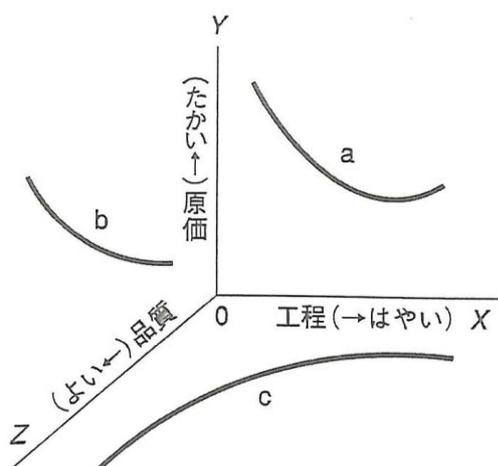
問題6. 登録基幹技能者に求められるOJTの「指導方法」に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか

1. 指導の仕方と仕事の与え方とは深い関係がある。
2. 指導で大切なことは指示どおり徹底してやらせることである。
3. 教えて見習わせて経験させ、自己啓発させることは、人間の成長に極めて大きな影響をおよぼす成長の原点である。
4. 自分本位ではないお客さま本位の仕事の重要性とその理由を説明する。

問題7. 施工管理の内容で最も不適当なものはどれか。

1. 施工計画は工事施工に当たり、様々な制約の中で設計図および工事仕様などから、施行手段をどのように組み合わせて目的物を完成させるかについて計画するものである。
2. 原価管理は材料費や労務費および現場経費などが予算通り実施されているか原価を管理するものである。
3. 工程管理は工事が予定通り行われているか、また遅れている場合など原因を管理することで、安全管理と連動している。
4. 品質管理は、発注者の要求した構造物の形状や性能、品質のものが作られているかを管理することである。

問題 8. 工程、原価、品質の一般的関係についての図表の記述について、最も不適当なものはどれか。

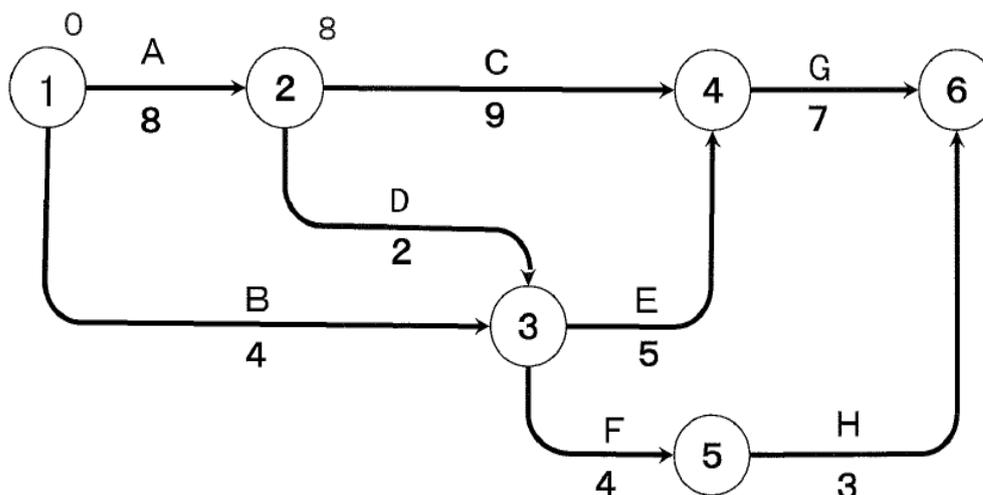


1. 施工管理の中で、工事の品質、工期、及び経済性を確保するための品質管理、工程管理、原価管理の3つの三大管理は、各々独立したものでなく、工事経営の一つの枠内で相互に関連している。
2. a 曲線は、施工速度を上げると、単位時間当たりの出来高が増え、原価は安くなりますが、施工を速めて突貫工事となるとさらに原価は高くなることを示す。
3. b 曲線は、品質の悪いものは安くできるが、品質をよくすると原価が高くなることを示す。
4. c 曲線は、施工速度を上げると品質は良くなるが、施工速度を下げると品質が下がることを示す。

問題 9. 工程管理に関する次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 作業可能日数は暦日による日数から、定休日、天候、その他にもとづく作業不可能日数を差し引いて推定します。
2. 作業可能日数は現地の地質、気象等の自然条件を十分に調査し、対象工事の技術的特性を考えて算定しなければならない。
3. 所要作業日数は、目的の作業が完了するまでに必要な最長日数です。
4. 一日平均施工量とは目的の工事量を作業可能日数でわって算定される。

問題 10. 下記ネットワーク例題の記述について最も不適当なものはどれか。



1. ③の最早開始時刻は(E S T)は10である。
2. ②の最遅終了時刻 (L F T) は8である。
3. ④→⑥の作業Gのトータルフロート(余裕)は7ある
4. クリティカルパスは24である。

問題 11. 資材管理に関する次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 発注時期の決定は他業職種の工程上の関連を十分に勘案し、工程全体を把握し、現場での資材の必要時期を想定して行う必要がある。
2. 現場の進捗・環境・状況に見合った数量ごとに順序良く指定した場所へ搬入する。
3. 揚重には現場のタワークレーンや、ロングリフト等の利用が主であり他業者も同時に揚重を行うので、技術者の指示のもとその調整に努める。
4. 現場内に保管する場合は、自社の作業工程を優先して、資材の性質によっては除湿、荷崩れ防止策、養生シートによる覆いなどの配慮をする。

問題 1 2. 原価管理における建設工事の原価について、最も不適当なものはどれか。

1. 予定価格、入札価格、実行予算は仮の原価（事前原価）である。
2. 入札価格とは、元請建設会社みずからが最初に行う原価予測で「元積もり」ともいうが、予定価格を意識しつつ工事の競争状況などを勘案して決めるが、これには通常、ゼネコンの利益見込み分が含まれていない。
3. 請負金額から一般管理費（元請として確保したい経費・利益）を差し引き、現場にわたされるのが実行予算である。
4. 入札価格、実行予算、事後原価は、元請ゼネコンの内部的なものであり、部外者にはわからない性格のものである。

問題 1 3. サブコンの積算について、最も不適当なものはどれか。

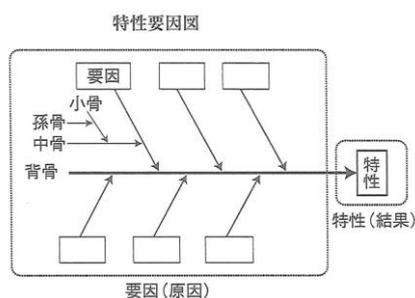
1. 設計数量とは、設計図書から求めた正味の個数、長さ、面積、体積の数値である。
2. サブコンの積算を構成する 3 つの原価要素は、材料費、労務費、残材処理費である。
3. 所用数量とは、切りムダ、重ねしろ、その他施工上やむを得ないロスなどを考慮した実際に必要な数量である。
4. 歩止りとは、設計数量に掛けることによって計画数量を求めるロス率である。

問題 1 4. タイル張り工法における目標性能について、最も不適当なものはどれか。

1. タイル張り仕上げは、美装性、躯体保護およびメンテナンス性といった性能を建築物の各部位に付与することを最優先し、そのうえで、はく落の危険を防止する性能を確保する。
2. 寒冷地など冬期に凍害のおそれのある地域では、外装や床および内装であっても水掛かりの箇所におけるタイル張りは、凍害を防止する性能を確保しなければならない。
3. 床タイル張りについては、人の歩行の安全性を期するために滑り抵抗性を確保し、床に用いられるタイルの滑り抵抗値は土足歩行の場合は C. R. S 値、素足歩行の場合は C. R. S・B 値で評価している。
4. タイル張り仕上げは、美装性等の各種性能のほか、施工性、経済性、環境保全性（廃棄物が少ない、リサイクル素材の活用等）の性能が要求される。

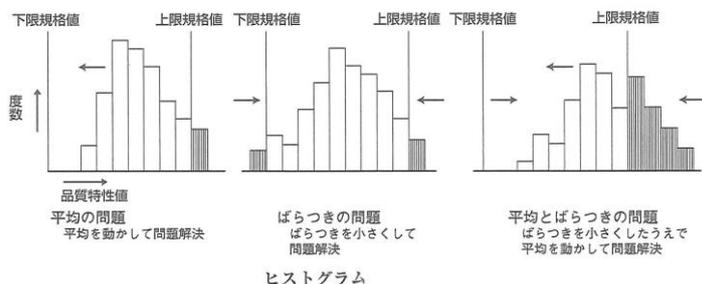
問題 15. 品質管理のQC7つ道具に関する次の記述の中で、その内容が最も不適当なものはどれか。

1. 特性要因図とは、品質上問題となっている特性（結果）とそれに関係する施工法（施工）の因果関係を魚の骨のような形に整理するものである。
2. チェックシートとは、特性要因図などで整理された要因の発生状況を把握するためのシートです。
3. ヒストグラムとは、チェックシート等で得られた要因の発生状況を棒グラフにしたものであり、平均値や標準偏差値を図に書き込み、ばらつきの状況の評価に用いる。
4. パレートの図とは、品質問題に関わる要因について、発生度数の順に並べ、各々の頻度をヒストグラムで、その累積の発生頻度を折れ線グラフで表現した図です。

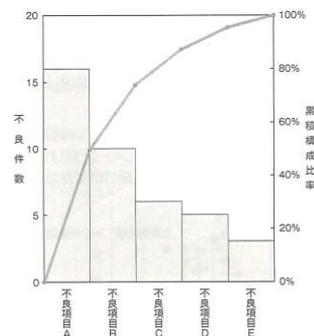


チェックシート

不良項目	不良件数	累積不良件数	累積構成比率
不良項目 A	16	30	49.2%
不良項目 B	10	15	24.6%
不良項目 C	6	8	13.1%
不良項目 D	5	5	8.2%
不良項目 E	3	3	4.9%
合計	40	61	100.0%



パレートの図



問題 16. 品質管理に関する、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 品質には設計段階で定められる設計品質があり「ねらいの品質」と呼ばれる。
2. 最終的な品質の高さは、品質の高い工程を積み重ねることによって実現する。
3. 高い品質は、発注者をはじめ、設計、監理者、ゼネコン、専門工事業者、材料供給業者の品質に関する考え方の共有が必要である。
4. 品質管理とは工事目的物を最も早くつくるための管理である。

問題 17. ヒューマンエラーについての記述において最も不適当なものはどれか。

1. 人間は一つのことに集中すると他のことに不注意になりがちである。
2. ヒューマンエラーが発生する事を前提に、発生したとしても事故につながらない対策を考えることと、発生を抑制する対策を考えるという 2 段構えが必要である。
3. ヒューマンエラーはその原因となる人間の特性を正しく理解しても、効果的な防止対策を講じることはできない。
4. 作業員への教育・訓練により、安全意識の向上などを図り、ヒューマンエラーの発生を抑える。

問題 18. 安全管理に関する次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 労働安全衛生法第 15 条では、特定元方事業者(元請業者等)は、建設現場で働く作業員の労働災害を防止するため、統括安全衛生責任者を選任し、建設現場全体を統括監理させなければならない。
2. 安全サイクルとは、管理サイクルの P, D, C, A を回すものである。
3. KY 活動(危険予知活動)とは、作業前に、作業グループごとにその日の作業の危険のポイントを洗い出し、適切な対策を立てる活動である。
4. リスクアセスメントとは、作業前に、作業に潜在する危険を洗い出し、危険の大きさを見積り、優先順位をつけ、除去、低減対策を立て、対策を実施し、危険の大きさを許される水準まで下げることである。

問題 19. 社会保険、労働保険についての次の記述の中で、その内容が最も不適当なものはどれか。

1. 健康保険と厚生年金保険については、法人の場合にはすべての事業所について、個人経営の場合でも常時5人以上の従業員を使用する限り、必ず加入手続きを行わなければならない。
2. 雇用保険については建設事業主の場合、個人経営か、法人かにかかわらず、労働者を1人でも雇用する限り、必ず加入手続きを取らなければならない。
3. 現場の予算が厳しい場合には、元請負人及び下請負人は見積時から法定福利費を必要経費として適正に確保する必要はない。
4. 元請負人は下請負人の見積りに法定福利費相当額が明示されているにもかかわらず、法定福利費相当額を一方的に削減したり、法定福利費を含めない金額で請負契約を締結し、その結果「通常必要と認められる原価」に満たない金額となる場合には、不当に低い請負代金の禁止に違反するおそれがある。

問題 20. 建設業法令遵守ガイドラインのうち「不当に低い請負代金及び指値発注(建設業法第18条、第19条第1項、第19条の3、第20条第3項)に関する次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 請負人が、下請負人に自ら提示した積算根拠を明らかにして、十分協議を行うことにより、下請け契約を締結した。
2. 元請負人及び下請負人が追加工事等に関する協議が円滑に行えるよう、下請工事の当初契約において書面より具体的に定めた。
3. 元請負人が、工事の予定価格に応じて一定の見積り期間を設けて下請け契約を締結した。
4. 元請負人が、下請代金の増額に応じることなく、下請負人に対し設計変更増額工事を施工させた。

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

【4者択一方式、最も適当なものはどれか。】

() 内に最も適当なものを選択し以下の文章を完成させなさい。

問題21. 登録タイル張り基幹技能者講習を受講するための要件のひとつとして()年以上のタイル工事の実務経験がある者と決められている。

イ. 5 ロ. 8 ハ. 10 ニ. 15

問題22. P・D・C・AサイクルとはPプラン（計画をたて）、Dドウ（実行し）、C. ()、Aアクション（処置・修正）することを繰り返しながら作業を進めていくことである。

イ. Clear（クリア） ロ. Control（コントロール）
ハ. Check（チェック） ニ. Count（カウント）

問題23. 「数量拾い」した数量に対して単価を入れることを()という。

イ. 積算 ロ. 見積り ハ. 歩掛かり ニ. 値入れ

問題24. 有機系接着剤による外装接着剤張りでは、タイルと接着剤との接着状態が施工の良否の重要な判断材料となるが、検査方法として、タイルを張り付けた直後にタイルをはがし、そのタイル裏面への接着剤の接着率が()%以上、かつ、タイル全面に均等に接着しているものを合格とする。

イ. 50 ロ. 60 ハ. 70 ニ. 80

問題25. 設計図書には、平面図、立面図などの設計図のほか、細部の複雑な構造を断面で詳細に示した図面を()といいます。

イ. 仕様書 ロ. 矩計図 ハ. 仕上表 ニ. 詳細図